

2020年沖縄週間／沖縄の旅 6月19日（金）～22日（月）

参加のご案内

ぬち たから

命どう宝～無関心に気づく～

「わたしは知っている」 アモス書 第5章12節

ハイサイ！めんそーれ。

主のみ名を賛美いたします。日本聖公会の皆様には、日頃から沖縄のためにお祈りしていただき、今年で26回目となる沖縄週間／沖縄の旅を共に行うことが出来る恵みに感謝いたします。

今年の沖縄の旅のテーマは、例年と同じく「命どう宝」（命こそ宝）として、副題で「無関心に気づく」としました。主題聖句は、アモス書の5章10節から15節という長いみ言葉の中から「わたしは知っている」という、とても短い一言を選しました。

「私は知っている」の聖句の前後を読むと、「お前たちの咎がどれほど多いか、その罪がどれほど重いか、わたしは知っている。お前たちは正しい者に敵対し、賄賂を取り、町の門で貧しい者の訴えを退けている」とあります。預言者アモスは、「善を求めよ、悪を求めるな お前たちが生きることができるために」と、当時のイスラエルにおける権力者たちによる社会的不正や、それによる貧富の差の拡大、そして知恵ある者たちが沈黙する、沈黙させられる悪い時代に心を痛め、主なる神様に立ち帰り、「正義を貫け」と声をあげます。この言葉を、今の時代の、私たちへの言葉として受け止めたいと思います。

日本聖公会の中で30年以上続けられてきた沖縄での小さな取り組みですが、その目的は一貫して、私たちが生きるこの世界の中で、現実にも弱く小さくされている存在に目を向け、耳を傾け、手を取り合っていくことで、自分たちの無関心という罪に気づき、そのことについて悔い改めと祈りと行動を、一人ひとりの生活の中から共に呼び起こしていく、沖縄の旅はそのための一つのきっかけとなることだったと思います。

「沖縄」が取り上げられるのは、今まさに私たち自身が、多くの人々の悩み、苦しみ、痛みに関心であることを突き付ける現実があり、沖縄で暮らし、また沖縄を訪れる人々の、その目に、耳に、肌に、その「無関心の現実」について直接語りかけるものであるからに他なりません。

しかし、最近ではその現実が歪められてきていると感じます。私が子どもの頃、沖縄戦の話を聞いたり、映画を見たり、実際にガマ（自然壕）を訪れながら感じたことは、「戦争は本当にこわい。絶対にしてはいけない」ということでした。特に小学校低学年の時に観た映画「GAMA～月桃の花」の中で出てきた、日本兵に怒鳴られて、母親が子どもを窒息死させてしまうシーンは、幼い私にとって本当にショックな場面として記憶に残りました。「戦争は、軍隊は、人間をおかしくさせる」という印象が私の中に深くあります。

でも、現在はどうでしょうか。戦争や平和に関する資料館に行っても「これは、あまりにも残酷すぎるから展示するのはやめよう」とか、「軍人にも良い人はたくさんいた」とか、戦闘機や軍事訓練のヘリコプターに笑って手を振る子どもの姿とか…。こういう光景を見て「何だかおか

しい」と思う私がおかしいのか、いつから戦争や基地について、綺麗な面や良い面を押し出して、まるでそれが「善」であるかのように伝えるのか。いつか、また子どもを戦争で失う母親に対して、「仕方がなかった」などと言わせてしまう日がやって来るのかと想像すると恐怖しか感じません。

戦争のことや、軍事基地のことを「歴史の話」や「政治の話」といって、学校の授業で聞かされた昔話や他人話のように感じる人たちもいます。でも、その「歴史」のために今も涙を流す人たちがいます。その「政治」のために今まさに痛み続ける人たちがいます。それは「いのち」の話だからです。「命どう宝」(命こそ宝)、それは沖縄の人々がたくさんの涙と痛みの経験の中で、手に入れたただ一つの希望です。

キリスト者が、「自分を愛するように、隣人を愛せよ」という主イエスのみ言葉に従う者たちであるというのであれば、私たちは今生きている「自分」と「世界」について、「いのち」について向き合わなければなりません。

どうぞ、皆さん、沖縄に来てください。特に今回、沖縄の旅は、初めてこの旅に参加する方々を想定しながら、沖縄の街を一緒に歩いたり、沖縄の歴史、沖縄戦、基地のことについて、共に学び、語り合う旅を用意しております。もちろん、これまでに参加してくださった方々も、改めて沖縄を知り、沖縄について互いに語り合う時間となると思います。そして、この沖縄の旅を通して、私たち一人ひとりの生活の中にある「無関心」について、共に気づき、祈り、行動していくことが出来れば良いと思います。

「愛の反対は憎しみではなく無関心です。」(マザー・テレサ) どうぞ、無関心よりも愛を、共に沖縄の地から発信していきませんか？(日本聖公会沖縄教区 執事 ヨシュア 上原成和)

※2018年の日本聖公会第64(定期)総会にて、『「沖縄週間」継続の件』が可決されました。

「2019年から2022年までの毎年、沖縄慰霊の日(6月23日)を含む1週間を「沖縄週間」とし、沖縄の宣教課題を具体的に共有する祈りやポスターなどを作成して全国の諸教会で用いる。」と定め、日本聖公会の全教区・教会が沖縄の現実に思いを寄せ主の平和を求めて祈るよう、兄弟姉妹に呼びかけます。

沖縄教区と日本聖公会正義と平和委員会は、今年もこの週間にあわせ沖縄の歴史と現在を学ぶ旅を企画し、全国の皆さんをお誘いします。多くの方々とともに沖縄の地に身を置き、学びと祈りを深めたいと思います。ご参加をお待ちしています。

沖縄週間の祈り

歴史と生命の主である神よ、わたしたちを平和の器にしてください。

嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、

敵意と憎しみのただ中にあなたの愛と赦しをお与えください。

私たちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中にいやしを、

疑いの中にあなたへの信仰を、主よ、豊かに注ぎ込んでください。

この沖縄週間を通してわたしたちを新たにし、

あなたの示される解放と平和への道を歩む者としてください。

わたしたちの主イエス・キリストのいつくしみによって、

このお祈りをお献げいたします。 アーメン

主催 日本聖公会 沖縄教区, 日本聖公会 正義と平和委員会

参加のしおり

* 航空券手配について *

3日目の6月21日（日）の宿泊と共に、市販の「ホテルパック」で手配されることをお勧めします（航空券とホテルを別に予約するよりも安く購入できる場合があります）。那覇空港発着の時間はプログラムに支障のないよう余裕をもってお考えください。

* 宿泊について *

- ・ 1日目 19日：当方手配の「沖縄ホテル」（那覇市^{だいどう}大道35）です。
- ・ 2日目 20日：当方手配による各教会への分宿です。
- ・ 3日目 21日：参加者各自で手配していただきます（ホテルパック等）。主会場の三原聖ペテロ聖パウロ教会（那覇市三原）に近い場所をご用意ください。（費用を抑えたい方は、教会への宿泊も手配できますので、ご相談ください）。

* 費用（概算） *

- | | |
|------------------|-------------|
| ・ 19日宿泊費（ホテル） | 6,500円（朝食込） |
| ・ 20日宿泊費（教会分宿） | 3,000円 |
| ・ プログラム参加費 | 12,500円 |
| ・ 食事代（20日昼・21日夕） | 1,000円程度 |
| 合計 | 22,000円程度 |

数年にわたり厳しい会計状況で開催して参りました。値上げにご理解くださりますようお願いいたします。

※このほか、下記については各自でご負担いただきます。

- ・ ご自宅と集合・解散場所間の交通費、21日の宿泊費（ホテルパック等）
- ・ プログラム中の公共交通機関での移動費等（2,000円程度）
- ・ 1日目夕食、4日目朝食・昼食（解散後）の費用

* 集合時間・場所 *

13時30分に 三原聖ペテロ聖パウロ教会へお集まりください。

那覇市三原2-23-1 Tel:098-832-3242 牧師：岩佐直人司祭

那覇空港からモノレール「ゆいレール」で約20分の^{あきと}安里駅下車。教会まで徒歩約10分およびタクシー5分程度。空港からタクシーのみの場合、6~7km・25分程度。

* 定員 * 45名（沖縄教区以外の方）

* 締め切り * 5月4日（月）

* 申込先 *

〒162-0805 東京都新宿区矢来町65番地 日本聖公会管区事務所 正義と平和委員会 宛
電話03(5228)3171 Fax.03(5228)3175

問い合わせ：正義と平和委員会・沖縄プロジェクト 担当 小林祐二司祭

電話045-321-4989（横浜聖アンデレ教会）

* 新型コロナウイルスの影響により中止となる可能性があります。5月上旬に判断し、申込みされた方々にお知らせいたします。

* スタッフ *

- ・ 日本聖公会 沖縄教区

主教上原榮正、司祭岩佐直人、執事上原成和、司祭金 汀洙、並里 厚、司祭西平妙子

- ・ 日本聖公会 正義と平和委員会・沖縄プロジェクト

司祭小林祐二、司祭柴本孝夫、司祭長田吉史

2020年 沖縄週間／沖縄の旅 プログラム（予定）

6月19日（金）～22日（月）

本年は、テーマ「命どう宝 ～無関心に気づく～」のもと企画しています。以下トピックをお知らせします。

19日（金）： ～沖縄の歴史と文化を巡る～ 三原聖ペテロ聖パウロ教会に集合。県立博物館で学習。グループでスタッフの案内により国際通り・やちむん通り等を散策、夕食。三原へ戻り沖縄の芸能体験。スタッフ手配のホテル泊（沖縄の観光ホテル第1号「沖縄ホテル」）。

20日（土）： ～沖縄戦を巡る～ ホテルにて朝食。バスでフィールドトリップ（ガマ体験、平和祈念公園、昼食、等）。夕方三原教会へ戻り沖縄教区内の諸教会に分かれて過ごします（分宿）。

21日（日）： ～祈り、分かち合う～ 分宿先教会で主日礼拝・愛餐会。午後は北谷諸魂教会での沖縄教区「慰霊の日」礼拝・プログラムに参加。夕方三原へ戻り「分かち合い」と夕食。各自手配のホテル泊。

22日（月）： ～現実への旅立ち～ 各自で朝食を済ませ、三原集合。バスでフィールドトリップ（嘉数高台から普天間基地見学）。閉会礼拝・解散。バスは「てだこ浦西駅」経由で三原へ。

日	1日目	2日目	3日目	4日目
時	6月19日(金)	20日(土)	21日(日)	22日(月)
8:00 :15 :30		朝食 ホテルにて	朝食 各教会にて	朝食 ホテル等にて 三原集合 三原出発
9:00 :15		フィールドトリップ② ホテル出発		フィールドトリップ③ 嘉数高台
10:00 :30		三原教会出発	各教会の礼拝に出席	(普天間基地を見る) 閉会礼拝
11:00 :30		ガマ体験 (アブチラガマ)		解散
12:00 :30		平和祈念公園 昼食(弁当) 公園内自由散策	昼食(各教会)	(てだこ浦西駅→三原教会)
13:00 :30	三原教会集合・受付	公園出発	北谷諸魂教会へ	
14:00 :30	開会礼拝・オリエンテーション・県立博物館へ移動	ひめゆり資料館		
15:00 :30	フィールドトリップ① 県立博物館集合	(喜屋武岬)	沖縄教区「慰霊の日」礼拝	
16:00 :30	各グループで博物館見学及び、那覇市散策(やちむん通り、国際通りなど)	各分宿教会へ移動 (バスは三原教会直行)		
17:00 :30	各グループで夕食		三原聖ペテロ聖パウロ教会へ。夕食(弁当)・分かち合い	
18:00 :30				
19:00 :30	三原教会集合・沖縄の芸能体験			
20:00 :30	就寝前の祈り・アナウンス		就寝前の祈り・アナウンス ホテルへ移動、就寝	
21:00	ホテルへ移動、就寝			
宿泊	当方手配のホテル	各教会	各自手配のホテル	

※諸事情により変更する場合があります。